



<感想①>

父子2名で参加しました。参加にあたり、本当に楽しいプログラムが盛り沢山であったという間の二日間でした。

初日、自己紹介から始まりました。大人はそれなりに、子供は恥ずかしそうに。でも10分もすると子供達はワイワイはしゃぎ出し、先ほどまでのモジモジはどこへやら。

最初のプログラムはお昼の流しソーマン。驚いたのは、初対面の人が多く、誰も役割を決めていないのに、自然と各々がそれぞれのやりたい仕事をみつけ、あっという間に準備完了したこと。

「やりたい人がやれることを。無理はしない、させないよにね♡」は、理事長 太田さんのマジックワードです。流しソーマンのルールが、黒川少年野外活動センターのセンター長（愛称）ロバさんから、伝えられると、皆さんそれも楽しんで、一口 食べたら一歩下がっていました。プチトマト、キュウリ、冷凍みかん、ゼリーといったおかずやデザートまで流れてくる愉快で嬉しいお昼ご飯となりました。

夕飯までは、各々が好きな様に過ごしました。センター近くの牧場でポニーに乗ったり、部屋に残ってのんびりしたりと、この無理のなさ、ゆるさも、くるみの魅力です。居心地が良い空間ができています。

夕飯は本格的なバーベキュー。センターの方々の手ほどきで、火起こしから焼き方を指南してもらいました。お肉はもちろんです、シイタケやピーマンが塩やオリーブオイルだけで、甘くて美味しいおかずとなり、子供達が喜んで食べていたのは、なんとも不思議でした。その頃には参加の皆さんは、だいぶ打ち解けて、いつもとは違う場と食を通して、特別な時間を過ごせていたと思います。

夜は、雨が強く予定変更し屋内にテントを張りました。それでも子供達は、テント・寝袋で寝るという経験に大興奮していました。忘れない思い出になったことでしょう。二日目、朝、切り出した竹からコップ作り。誰かに竹を抑えてもらう必要があり、一人ではできません。ノコギリの順番待ちありましたが、お互い協力し合い、スムーズに事が運びました。竹コップは、長さ大きさ絵柄とそれぞれ個性が出ていました。その出来栄の違っても楽しむことができました。

お昼ご飯は、ドラム缶ピザ。小麦粉をこねるところから、生地伸ばし、具材選びからレイアウトまで、これまた個性が出ていて、面白かったです。

同じ素材を使っているのに、味もそれぞれ、それぞれに美味しい。このキャンプ最後のプログラム

がまさに、「それぞれの個性が出ています」という

くるみの思いが体現されていると思います。

終わりの会の時に、「子供だけでなく大人も楽しんで良かったの良かった！」とのコメントがありました。本当にその通り、年齢にも関係なく、それぞれが楽しめたイベントでした。

ここで改めて、企画いただいた理事長太田さんをはじめ、関係者、参加した皆さまに、新たに人と人のつながりをもてたこと、楽しい時間を共有できたこと、お礼申し上げたいと思います。

ありがとうございました。（by おびさん）





り上がりでした。

<感想②>

お天気が心配されながら迎えたくるみ初のわくわくお泊まりキャンプが、黒川青少年野外活動センターで行われました。朝は曇り空。我が子たちはさまざまな野外活動プログラムを体験できることにワクワク。

まずは流しそうめん。

茹で上がったそうめんをみんなでわんこそばのように一口サイズにしていく。その大きさに一人一人の個性がでておもしろい。いよいよ流しそうめんがスタート。そうめんだけではなく、ミニトマトやきゅうり、最後は凍ったフルーツやゼリーも流れてきて、さらに個数限定ということで大盛り上がりでした。

次はお昼休憩も兼ねてのんびりタイム。各々が思い思いに過ごす、それがくるみのいいところだと毎回思う。はじめは緊張していた我が子たちも風船バレーをしたり時間とともに他の子と交わり、時にはお兄さんスタッフのおもしろ話に笑顔が見られるように。

その後、希望者だけ牧場へお散歩。ポニーが3頭。怖がらずに即座にえさをあげる子。乗りたいという子。我が子2人はポニーに噛まれるのではないかとちょっと離れて様子を見ていました。みんなそれぞれのペースで楽しむ、心地よいくるみの空間。みんながポニーに乗っているのを見て、次第にウズウズ。最後には一番大きなポニーに乗りご満悦の我が子たち。

野外活動センターへ戻り、いよいよメインイベントのBBQ。上級BBQインストラクターの資格を持つスタッフの方々のご指導のもと（この資格の存在も初めて知りました）、今までのバーベキューの概念を覆されるような段取りとおいしさで、子どもはもちろん大人もお腹も心も満たされました。そしてBBQのことをかなりマスターした気になった主人をみて、今度家でやるBBQが楽しみになりました。

私たちは今回日帰り参加だったので2日目のプログラムはまたの機会に。いつも子どもも大人も楽しめるプログラムの提供を考え、どなたでも大歓迎のくるみの活動にこの場を借りて感謝申し上げます。（by 参加のお母様）

※ 本イベントは、「かわさき市民公益活動助成金」「河川財団助成金」を受けて実施しました。

くるみのおうちの立ち上げ ①

これまでの5年間、くるみの事業活動は順調ながらも、様々な課題がありました。その一つが、公共施設での活動が中心のため、当事者や家族が参加しづらいケースがあることでした。

当事者や家族の方にとってホッとできる、アットホームな居場所を自分たちで作ることができれば、もっと多くの仲間たちとつながり、ともに事業活動を行うことができる。



そのような場を地域の人たちと一緒に作り上げることで、地域社会はもっと豊かになるのではないか？という思いが強くなってきたのが2018年の初めくらいのことでした。

そこから色々な検討を始めました。最初の頃は居場所のイメージづくりのため、あちこちのコミュニティの情報を聞きつけては現地に足を運び、その場の空気を感じるよう心掛けました。町のコミュニティカフェ、パン屋さん、手芸店、遠方では福岡まで視察に行き、スタッフさんや利用者さんにもお話を伺いました。形態は就労継続支援B型、地域活動支援センター、まちのコミュニティスペース等さまざま。当事者・支援者の別なく一生懸命仕事に取り組まれているみなさんの笑顔がとてもまぶしく感じられました。

くるみでつくるならこんな居場所にしたい。そんなイメージが漠然とできたところで、いよいよ物件探しです。しかし、「空き家」が多くて社会問題化しているところと騒がれている割には、実際に探し始めるとなかなか見つけることができません。途方に暮れていると、NPO仲間から「活動場所（空き家）探しセミナー」の情報提供が！これこそ我々が探し求めていた講座。主催は「NPO法人横浜市まちづくりセンター」。そんな支援をしてくれる団体さんがあったんだ！と小躍りしながら、喜び勇んでコアメンバーで受講してきました。話を聞いてみて納得。空き家と言うのは、探し当てるルートが未確立なため、自分たちで探し当てるしかなかったのです。

講座で学んだ内容を踏まえて、チラシを作っているいろんな場所で配る、ということをしました。「この条件なら絶対に借りたい」という譲れない条件をまとめて「活動場所を探していますチラシ」を製作。自主イベント、NPO見本市、セミナーや団体紹介の機会のたびにチラシを配り、自分の言葉で説明し、情報提供の協力を求めました。それでも、なかなかこれといった情報は集まりません。情報が来てもよくよく確認すると数年の期限付きであるとか、数年後には使えるようになるかも？というあいまいな情報であるとか、相続の問題であるとか…。たくさんあるはずの「空き家」を探し当てるのがこれほど難しいことだとは思ってもいませんでした。（次号につづく）